

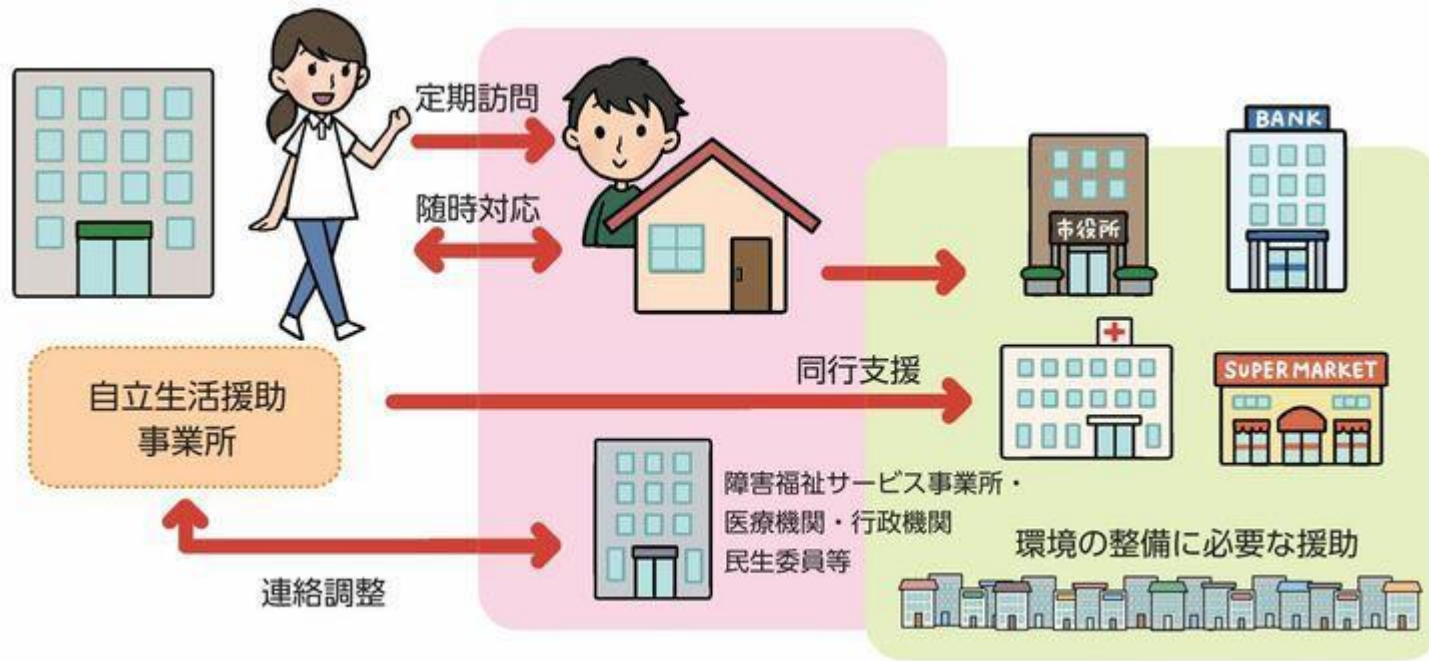
自立生活援助を利用して 生活をしている立場から

当事者：たかさん（仮称）

支援者：三森 恭平

（特定非営利活動法人 色えんぴつ 自立生活援助事業所 櫛）

自立生活援助とは



(出典：地域で暮らそう！地域移行支援・地域定着支援・自立生活援助導入ガイド_金剛出版, 2018)

一人ひとりの取組む課題やその方のペースに合わせて「定期的な訪問」だけでなく「随時の対応」や「同行支援」を組み合わせることができる**柔軟性の高い支援**

時間や場所に制限はなく、必ずやらなければならないこともない。

その方に合わせて対応する姿勢が大切

NPO法人色えんぴつで自立生活援助事業を始めた経緯

運営しているグループホームが通過型であるため、3年程で次々と卒業し一人暮らしに移る。

グループホームを退居した方から、グループホームへ困り事の相談の連絡が来る。

グループホームのスタッフが、入居者対応をしつつ、たいていは時間外に退去者の対応も行う。（これについては無報酬）

2018（平成30）年、国の施策で自立生活援助という障害福祉サービスができる。

退去者支援が可能になると考え、事業を始める。

グループホームの退去者だけではなく、既に一人暮らしをしている方へも支援していけると考え、対象者を広げる。

自立生活援助事業所 櫛 主な支援内容

○令和3年度の支援内容

内容	回数
相談への対応、近況確認	238回
掃除、片付けの手伝い	56回
手続き関係	21回
スマホ、家電等操作手伝い	6回
入浴介助	45回
家具組立て、取付け等手伝い	7回
臨時訪問で多い支援内容：電球取換え等	

○令和3年度の同行支援(96件)の内訳

内容	回数
買い物	33回
受診同行	18回
ATM同行	13回
行政等への手続き関係	10回
近所の散歩	7回
不動産屋等引っ越し関係	7回
コインランドリー（使い方の助言）	3回
銭湯	3回
作業所見学、コンビニ印刷機の使い方の助言、近所のクリニックの場所の確認	各1回

利用者と支援者のプロフィール

○利用者:たかさん(仮称)

☆お母さんと二人暮らし

☆就労継続支援B型事業所
週3回通所

☆訪問看護 週3回

☆自立生活援助の訪問 週1回



☆趣味

銭湯、音楽鑑賞（大好きなアーティストがいる♪）

☆最近の楽しみ

○妹さん家族と共に食事に行くこと

○好きなアーティストのCD を聴いたり、DVD
を観ること

○支援者:三森恭平

☆自立生活援助事業所 櫛 担当
入職4年目

☆看護師資格有り

☆出身 秋田県

☆趣味 サッカー
鹿島アント
ラーズ



たかさん(仮称)が自立生活援助を利用することになったきっかけ

長くB型事業所に通っていたが、ステップアップしたいと考えより多くの収入が見込めるA型事業所へ見学・実習を行った。

作業内容や環境の変化から体調を崩してしまった。自分では入院する程だとは思っていなかったものの、家族の勧めで入院することとなった。3か月程入院治療を行い退院するも、再入院となってしまう。

退院に向けて、グループホームに入居するか自立生活援助を利用しながら自宅で生活し続けるか検討。服薬や体調管理については訪問看護にて継続的に看てもらおうということになった。

グループホームはなかなか見つからず、また主治医や家族の希望もあり自宅へ退院することとなる。生活上の不安や困り事については、家族に話すことも多かったが、関わる支援者とも相談ができるようになることを目指し、訪問での支援が受けられる自立生活援助という福祉サービスがあることを相談支援事業所やB型作業所スタッフから伝えると、本人も希望される。(たかさんと三森は面識あり)

訪問の際行っていること

1. 近況や相談事等を話す
(生活リズムのこと、薬のこと、通所についてのこと)

過去にお母さんとの二人暮らしにストレスを感じ、口論となってしまうなどのトラブルがあった。

三森が定期的に訪問し話し相手や聞き役となることで、お母さんとの距離感を適切なものにできるよう工夫した。

訪問の際行っていること

2. 外出同行（近所への散歩）

調子を崩してしまいう前にはほとんどなかった幻聴のため、一人で外出することが億劫になっていた。

一度散歩へ誘うと、歩きながら幼い頃の話なども話しながら散歩を楽しめるようになっていった。

精神薬の副作用で食欲を増進させるものがあり体重が増えていたため、活動量を増やす意味も兼ねている。

訪問の際行っていること

2. 外出同行（一緒に銭湯へ）

もともとたかさん（仮称）が近所の銭湯によく行っていたということは伺っていた。

三森もグループホームの入居者と共に銭湯へ何度も行ったことがあることを話すと『行きましょうか！』ということになる。

入浴することは温浴効果により血行が良くなること、気分転換になること、より関係性が親しくなることを期待した。



宮造りの銭湯（明神湯）
大田区は、銭湯の数が都
内最多
※大田区HPより

訪問を受けて助かっていること

最近では定期的な通所ができていないため、散歩や銭湯に一緒に行ける人がいること

訪問看護の訪問もあるものの、時間が限られているため検温や薬の確認だけで終わってしまう

最後に…

セミナー受講者へメッセージ

○支援者：三森恭平

住まいの近くで自立生活援助を利用できる事業所があるのか調べてみてはいかがでしょう。素敵な出会いがあるかも！？

○利用者：たかさん(仮称)

同じ訪問のサービスでも、訪問看護は薬などの体のことで、自立生活援助は一緒に出掛けることもできるし、話だけすることもあるし、生活していくことの手助けをしてくれるイメージです。僕にとってはどちらも必要なサービスだと思っています。